中央市民病院
しおかぜ通信
9号
編集・発行
神戸市立医療センター中央市民病院
広報委員会
TEL 078−302−4321
ホームページ　http://www.kcgh.gr.jp

「助産師外来」がオープンしました

神戸市立医療センター中央市民病院　産科病棟師長　佐藤秀子

6月23日より助産師外来をはじめました。当院のような総合病院の産科では半数以上をハイリスク妊婦がしめています。医師の行う妊婦健診はハイリスク妊婦の診察に時間がかかり、順調な経過の妊婦に対してはゆっくりと話をしたいと思っても時間をかけて関わることが難しい現状です。そこでリラックスした環境の中で安全で快適なマタニティライフを提供するためには、助産所のような家庭的な雰囲気と病院の持つ安全性を兼ね備えた総合病院の助産師外来は妊産婦のニーズにあった理想的な環境であると考え助産師外来を開設しました。また厚労省は、正常なお産に関しては、助産師の積極的な活用を推進しており、「正常産は助産師・異常産は医師主導」とチームとして妊産婦管理を行う時代となってきています。

現在オープンして1ヶ月あまりたちますが少しずつ助産師外来を選択される妊婦さんも増え助産師もやり甲斐を感じています。妊娠・出産を通して女性が自分自身の持っているすばらしい力に気づいてもらえるような支援を行い、そして新しい命やその家族にとっても安心、信頼を提供できるような助産師外来をめざしていきたと考えています。

助産師外来の運用をご案内します。

	助産師外来
対象妊婦	●妊娠20週以降で順調に経過している妊婦　●産科以外の既往歴のない妊婦 ●助産師外来の主旨を理解し受診を希望する妊婦
診察日時	●月 曜 日：9時〜12時　13時〜16時　●木 曜 日：9時〜12時 ●診察時間：45分（完全予約制）
診察場所	産婦人科外来
診察内容	1．妊婦健診 ●妊婦と胎児の健康診査（問診、視診、外診、計測、聴診、内診など）　●超音波検査やNST ＊定期的に医師の健診も受ける 2．保健指導 ●マタニティライフを快適に過ごす方法　●満足のいくお産や育児のためのこころと体の準備 ●栄養指導、ウエイトコントロール　●乳房ケア ●情報提供　●相談対応
健診料金	4,000円

当院の診療科スペシャリスト紹介します

麻酔科紹介

麻酔科は手術を受けられる方の麻酔管理ならびに集中治療室における重症者の治療を主に担当しております。

麻酔科医の役割は手術中、痛みや意識を取って苦痛のないようにすることだけではありません。手術の間ずっと患者様のそばに立ち会い、手術が安全に行われるよう血圧は安定しているか、呼吸の状態に問題はないか、麻酔は過不足なく効いているかなど常に観察し、適切な処置を施しています。また、手術後も疼痛等の苦痛を取り除き、順調に回復するよう努めております。

集中治療室では、麻酔管理を通して得た全身管理の知識や技術を生かして治療にあたっております。重症感染症、呼吸不全、循環不全等の重症者が速やかに危機的な状態から脱して日常生活に戻れるよう他科の医師、看護師、臨床工学技士、理学療法士、検査技師、放射線技師、栄養管理士など様々な部門のスタッフと協力しております。

ペインクリニック外来は残念ながら現在のところ開設しておりません。これからの課題と考えております。

スタッフ	
山崎　和夫	部長、麻酔科指導医、集中治療医学会認定医、救急科専門医
宮脇　郁子	医長、麻酔科指導医
美馬　裕之	医長、麻酔科専門医、集中治療医学会認定医
岡崎　俊	副医長、麻酔科専門医
東別府直紀	副医長、麻酔科専門医
趙　晃済	医員、麻酔科認定医
瀬尾龍太郎	医員、内科認定医
山下　博	医員、麻酔科認定医
岸本　俊	専攻医、麻酔科認定医
佐藤　敬太	専攻医
塩崎　恭子	専攻医
前川　俊	専攻医
藤田　靖子	専攻医、麻酔科認定医
瀬尾　英哉	専攻医
田中　万貴	専攻医

麻酔科部長　山　崎　和　夫

臨床病理科紹介

病理組織診断

“病理医”というと一般の方にはなじみが薄いかと思いますので、ご紹介します。生検、手術標本の組織診断、迅速診断、細胞診、病理解剖などを行っています。

生検標本の病理診断

例えば内科医が胃内視鏡をしたときに、異常に見える部分から1mmぐらいの組織をとると（生検）、ホルマリンに漬けて病理に送ります。臨床検査技師がアルコールなどで水分を抜いて、パラフィンを染み込ませて固め、薄切、染色してスライドガラスの標本を作り、病理医が顕微鏡で調べます。例えば癌の有無、癌の種類、炎症の種類とかを診断します。通常1-3日でお返事します。難しければ、免疫染色などの特殊な染色を追加して、診断をつけます。乳癌疑いの針生検、肺癌疑いの気管支鏡生検、子宮頚部や内腹の生検など、ほとんどの科から様々な組織が出され、悪性の有無、腫瘍や炎症の種類などを診断しています。当院では年間約9千件行っています。

手術標本の病理診断

例えば外科医が胃癌の胃を切除すると、切り開いて伸ばして、ホルマリンに漬けて病理に送ります。病理医が肉眼的に調べ、問題になる部分を切り取って、技師がスライド標本を作り、病理医が顕微鏡で診断します。癌の種類、癌が入り込んでいる深さ、切り取った胃の端に癌が残っていないか、リンパ節に転移はあるか、ほかに異常は無いかなどを調べます。臨床医が病変をしっかり理解できるように、癌の分布図も書きます。通常1-2週間でお返事しています。年間約1,100件行っています。

臨床病理科部長代行　今　井　幸　弘

平成20年８月発行 神戸市立医療センター中央市民病院
神戸市広報印刷物登録　平成20年度　第66-2号
（広報印刷物規格Ｂ－１類）